## 1-1 春の高山祭(山王祭)



16世紀後半から17世紀が起源とされる高山祭。高山祭とは春の「山王祭」と秋の「八幡祭」、2つの祭をさす総称で、高山の人々に大切に守り継がれてきました。

このうち、高山に春の訪れを告げる「山王祭」は、旧 高山城下町南半分の氏神様である日枝神社(山王様) の例祭です。

#### 1-2 千光寺



袈裟山千光寺は、平安時代に、弘法大師の高弟真如親王によって、真言密教の道場として建立され、隆盛期には7堂伽藍19の院坊があったと伝える。永禄7年に武田軍勢の飛騨攻めの際に堂塔伽藍は焼き討ちに遭い、その折に仁王門も焼失した。安永年間、廃仏毀釈の嵐が吹き、別当職を務めていた飛騨水無神社より、阿吽仁王像2躯を移送し、この地に仮堂を建てて安置した。

# 1-3 位山



位山は、飛騨高地の中央に位置する岐阜県高山市の 標高 1,529m の山。

飛騨北部と南部の境界であり宮川と飛騨川の分水界である位山分水嶺の山。飛騨一宮水無神社の神体である。日本二百名山のひとつであり、山域は岐阜県の「位山舟山県立自然公園」に指定されている。

## 1-4 飛騨一宮水無神社例祭



飛騨一之宮水無神社例祭は古くより旧暦 8 月 15 日に行われていましたが、明治以後は 9 月 25 日に行われ、最近では稲の収穫時が早くなったことや気象関係もあって、昭和 36 年式年大祭以後 5 月 2 日に改められました。

5月1日は試楽祭で早朝から氏子各組の新旧組長等が社殿の前に集って、幟立てや神酒[濁酒] 開き等に奉仕し、氏子総代は神輿その他の祭りに使う道具の準備に忙しくなります。午後3時より中祭式により関係のある神社の祭礼が行われます。

## 1-5 飛騨支路・位山道



国の制度の中に日本国の道路が位置づけられたのは、701 年(大宝元年)制定の大宝律令ができたときである。道路は7つ作られ、その1つである「東山道」は日本列島の背骨にあたる山地を通る道路であった。

奈良から東北へと通ずる道路であり、基本的には政府の役人などが通るために整備された。古代の官道では、30里(この時代は30里が約16km)を基準に駅家(えきや)が設置されている。この七道は大、中、小路に分類され、東山道は中路で、各駅家には馬10疋(ひき)が置かれた。

#### 1-6 宮川



宮川の清冽な湧水は、位山と川上岳を結ぶ峰と、それらを結ぶ尾根の裾地から流れ始めます。東や南の絶壁の裾山、下方から湧き出す水は、ツメタ谷となって渓谷の源流となります。そして川上岳の山のふもと近くの、なだらかな丘地の水を集めたヌクイ谷の温かい水と合流します。その流水が一之宮町の盆地までの源流・渓谷をつくりだしています。

飛騨の宮川は、日本全国の十数流もある宮川と称する河川の中でも、最も大河と言われています。

## 1-7 飛騨の木工家具



飛騨における洋家具発祥の歴史は、大正 9 年に取り組んだ家具づくりが源である。当時未活用材であったブナ材の活用を考え、多くの困難を乗り越えて飛騨を一大家具産地に発展させた歴史がある。木材を蒸して曲げる方法を 1837 年頃に考え出したのはドイツ人の「ミハエル・トーネット」であった。世界各国に 5,000万脚も販売したといわれる。

## 1-8 吉島家・日下家



## ■吉島家

江戸初期に整備された越中街道沿いにあり、江戸時代後半から民家が建ち並ぶようになった町人地にある。主屋、倉は明治 40 年 (1907) に建てられ、に国の文化財に指定。

#### ■日下部家

江戸初期に整備された越中街道沿いにある。昭和 41 年、主屋、文庫倉、新倉の 3 棟が国指定。

## 1-9 高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区



平成 16 年 7 月 6 日、約 6.6ha が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。南北通りは約 780m、東西幅は約 180m。鳩峯車組町並保存会、神馬台組町並保存会、船鉾台組町並保存会、豊明台組町並保存会、浦島台組町並保存会、大新町 1 丁目 3 班町並保存会、越中街道町並保存会の 7 保存会により町並み保存がなされている。伝統的建造物は 200 棟、その他の工作物 12 件、環境物件が 8 件ある。

## 1-10 高山市三町伝統的建造物群保存地区



昭和54、平成9年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。地区の面積は約4.4haで、南北通りは約420m、東西の幅は約150m。伝統的な建造物が172棟あり、秋葉様社が2棟ある。恵比須台組町並保存会、上三之町町並保存会、片原町町並保存会の4保存会により町並み保存がなされている。

#### 1-11 一位一刀彫



木の細工に匠の技を極めたのは江戸在住の平田亮朝である。亮朝は文化6年(1809)に高山で生まれ、若くして江戸の根付彫刻の大家といわれた山口友親(寛政13年江戸生まれ、3代続いた)の門に入り、江戸で根付彫刻の大家として大成した。浅草橋付近に住み、江戸で有名な日本橋通塩町の小間物問屋「日野屋」の大事なお抱え根付彫師として活躍。しかし、38歳と若くしてその生涯を終えている。

## 1-12 飛騨春慶



慶長年間(1596~1614)高山城下で、神社仏閣の造営工事に携わっていた大工棟梁、高橋喜左衛門が仕事中に、たまたま打ち割った材の批目の美しさに心を打たれ、その板を使って風雅な盆を作り、金森可重の子重近(金森宗和)に献上した。重近はその木目に感動し、御用塗師の成田三右衛門に木目の美しさを生かして漆を塗るよう命じた。三右衛門は素地を生かした透漆で、その盆を塗り上げた。

#### 1-13 春の高山祭 山王祭



日枝神社(高山市城山)を中心に祭礼が毎年4月14、15日に執行される。

春と秋の高山祭は、今から約 400 年前に始まった。 江戸時代初めの飛騨国主「金森氏」は、城下町高山を整備する際、城の守護神として日吉神社(現在の日枝神社)を設け、氏子の区域は商人町の南側としている。 また、城下町の北方には産土神として八幡宮を設け、商人町の北側区域を氏子とした。

## 1-14 高山陣屋



昭和4年に国の史跡に指定された。

建物周辺の所有者は岐阜県、陣屋前広場は高山市。 史跡範囲は 11,219.05 ㎡。

現在遺構は「御門」天保 3 年(1832)、「門番所」 天保 3 年(1832)、「御役所」文化 13 年(1816)、 「御蔵」慶長年間( $1596\sim1615$ )、「御勝手土蔵」天 保 11 年(1840)、「書物蔵」天保 12 年(1841)、「そ の他・供待所、腰掛、中門」

#### 1-15 千鳥格子御堂



金鉱が発見されて賑わいを見せていた六厩で、慶長元和 (1596~1624) の頃、この地の了宗寺の建立を終えた名工の棟梁が、その余材で旧軽岡峠の辻に「地蔵堂」を造った。御堂の扉として考えられたのが、謎に包まれた千鳥格子の秘法だった。この格子戸は檜の角棒を互い違いに組んでいるが、どこでどのように組み合わせたものか、外見では全くわからない立派な細工で、千鳥格子と呼ばれてきた。

## 1-16 飛騨匠神社



飛騨の高山でこれらの人たちを祀る「飛騨匠神社」が、堀端町、飛騨護国神社境内に出来上がった。左甚五郎はじめ多くの棟梁工人をうみ「飛騨匠」の名を残している神社は小さなつくりだが、出来ばえは精密なもの。そのうえ、この神社の建設は明治維新以来飛騨匠の伝統を継ぐ人たちの宿題となっていただけに関係者の喜びはひとしお。

## 1-17 熊野神社



一間社流れ見世棚造で杮葺、桁行 1.827m、梁間 1.073m、昭和 54 年、重要文化財に指定されている。 荒城神社、阿多由太神社本殿に続くもので、飛騨地方 の神社建築の流れを知る上にも重要である。

熊野神社本殿は、安国寺境内の北側にあって西面して祀られ、近世には安国寺の鎮守であった。現在は覆屋に入っている。明治初年、神仏分離によって村社に列し、その後明治末期に拝殿、幣殿の建立と整えていった。その際、本殿を覆屋に格納するのに狭いため背面軒廻りを切断してしまった。

#### 1-18 安国寺経蔵



この経蔵は飛騨地方で唯一の国宝建築である。経蔵の建立は、天井裏にある輪蔵心柱の上端を受ける横木の墨書により応永 15 年 (1408) と判明していて、内部の八角輪蔵は国内における現存最古の輪蔵である。輪蔵には寺僧が中国に渡航して請来した元版大蔵経 (一切経) が納められている。心柱に大蔵経を納める書架を中心とした八角輪蔵の部材が取り付き、心柱を軸に回転する構造となっている。

#### 1-19 荒城神社



明徳元年(1390) に創建され、元中7年(1390) に 再建されている。三間社流造り、杮葺で、素木造り。本 殿と棟札7枚が国の文化財に指定されている。

宮地鎮座の荒城神社は、延喜式神名帳にある飛騨国 八社の一つである。祭神は天之水分神・国之水分神で あるが、大荒木命を祀ったとの説もある。

#### 1-20 小萱の薬師堂



中世北飛驒の領主江馬氏の菩提寺だった瑞岸寺の飛び地仏堂。古くから養蚕の守り本尊として広く信仰され、寝雑薬師と呼ばれる奇祭が毎年行なわれ、多くの信者が参拝に訪れていた。正式名称は「瑞岸寺安楽院薬師堂」といい、桁行 3 間 (6.686m)、梁間 3 間 (6.666m)、一重、入母屋造、こけら葺、国指定文化財。

#### 1-21 阿多油太神社



昭和36年、国の重文に指定されている。三間社流見世棚造柿板葺、桁行は2.76m、梁間は1.25m、向拝は0.96m、基壇は玉石で積まれている。素朴・優雅で技法が極めて優れ、優雅な感じのする建物である。延喜式や三代実録に記載された古い社で、木曽垣内・三日町・半田の一部の産土神として、江戸時代にはこの地方の総社として広く崇敬されてきた。主祭神は大歳御祖神、大物主神。

## 1-22 飛騨国分尼寺



奈良時代から 10 世紀後半頃まで飛騨国分尼寺が建てられていた場所である。昭和 63 年、辻ヶ森三社の社殿改築を機に発掘調査が実施され、飛騨国分尼寺金堂跡が発見された。規模は、基壇の大きさが正面幅 110尺(32.78m) 奥行 66尺(19.67m) で、基壇上には桁行7間、梁間4間の礎石建物が建てられていた。飛騨国分寺の金堂寸法も、桁行7間、梁間4間と同じで、桁行の寸法も88尺と同じ大きさであることが分かり、両寺の強い関係が知られた。

#### 1-23 飛騨国分寺



現在の国分寺境内地は奈良時代の国分寺があった場所で、現境内地は東西 70、南北 92m、民地が入り組んでいて創建当時の寺域より、かなり狭まっていて、室町時代の国分寺本堂が建っている。

昭和 27~29 年、国分寺本堂を解体修理する際に本堂下が発掘調査され、9 個の礎石と根石を確認した。この遺構は 4×7 間規模の建物跡と推定され、金堂跡と推定されている。

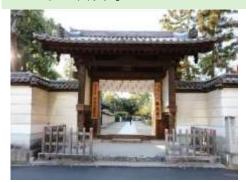
#### 1-24 飛騨一宮水無神社



飛騨一円を崇敬者とし、除夜祭・歳旦祭は飛騨一円を始め県内外からの参拝者が多い。例祭は5月2日、ひなまつりは4月3日で日本唯一の「生きびな祭」として有名である。創立年代は不詳、祭神は水無大神など、位山を「神体山」としている。

第38代天智天皇の8年(669)、位山の櫟材で作られた笏を朝廷に献上してから、櫟に一位の樹名を賜わり、山は位山と称するようになった。

## 1-25 西大寺



西大寺は、奈良時代天平神護元年(765)に創建された。官大寺を総称する「南都七大寺」の1つに数えられ、2015年に創建1250年を迎えた。奈良時代、聖武天皇・光明皇后の後を継いだ娘帝の称徳天皇が「常騰を開基として鎮護国家」の思いを込めて開創し、東大寺などと並び称される寺格を誇っている。当時は広大な寺域に多数の堂塔が建ち並び、東大寺と共に栄えていたが、承和13年(846)以後数多の火災にあい、創建当時の建物はほとんど焼失した。

## 1-26 西隆寺塔跡



西隆寺は、奈良時代に平城京に造営された尼寺。称徳天皇の発願によって神護景雲元年(766 年)に造寺司(造西隆寺司)が設置され、西大寺そばの右京一条二坊の地4町に建立された。

創建当時は官寺として他の諸大寺と同様の扱いを受けた。桓武天皇も封戸を施入するなど厚い保護を受けていたが、次第に衰退し、元慶 4 年 (880 年) には西大寺の管下に入った。鎌倉時代には廃寺となった。

#### 1-27 大極殿



大極殿は古代の宮都における中心施設で、元日朝賀や天皇の即位など、国家儀式の際に天皇が出御する場所である。平城宮には、造営当初から恭仁京へ遷都するまでの大極殿(第1次大極殿)と、平城京に遷都してから長岡京に遷都するまでの大極殿(第2次大極殿)の2つの大極殿が確認されている。

#### 1-28 朱雀門



7世紀にできたとされる古代の街道「下ツ道」は、藤原京からまっすぐ北にのびて平城京の正門である羅城門につきあたる。羅城門をくぐると、幅75mもの朱雀大路がまっすぐ北へのびていた。街路樹として柳の木が植えられていたといい、羅城門から4km先には平城宮の正門である朱雀門がそびえ建つ。

朱雀門の左右には高さ 6m の築地塀がめぐり、約 1km 四方の広さ、130ha の広さの宮城をとりかこんでいました。

#### 1-29 唐招提寺



唐招提寺は天平宝字3年(759)、唐の高僧鑑真大和上によって創建された。飛鳥時代に仏教が伝来して以来、戒律は概念として知られながらも、さほど重視されていなかった。奈良時代に入り、その重要性が知られ始めたが、日本には授戒を行える僧侶がおらず、授戒の体制整備が急がれた。鑑真和上は朱鳥2年(688)、中国揚州で誕生、14歳の時、揚州の大雲寺で出家。21歳で長安実際寺の戒壇で弘景律師に授戒を受けたのち、揚州大明寺で広く戒律を講義し、長安・洛陽に並ぶ者のない律匠と称えられていた。

#### 1-30 平城宮



唐と新羅が再編成した東アジアで、日本が生き残るためには、強力な政府を建設する必要があった。政府は先進国の唐帝国を手本にして国を統治する律令制度を導入し、仏教の国教化を促進してゆく。飛鳥浄御原宮・難波京・藤原京と都市建設の実験を繰り返しながら、710(和銅3)年3月、平城に遷都して都が完備された。

#### 1-31 飛騨町



飛騨町一帯には飛鳥、奈良時代、木工に秀でた多数の飛騨匠が飛騨から招集され、日本初の都城・藤原京造営のため長く住んでいたと伝えられている。

藤原京造営が終わったあとの天平勝宝 8 年 (756) に、孝謙天皇が当地の「飛騨坂所」と呼ぶ領地を南都・ 東大寺に与えた。その書き付けが内閣文庫所蔵の東大 寺文書として残っている。当時すでに「飛騨」の地名 が定着していたことになる。

#### 1-32 寿楽寺



寿楽寺跡地は道路改良に伴い、岐阜県教育文化財団が平成 10~12・15 年度の 4 次にわたり発掘。結果、講堂基壇跡と回廊遺構が発見された。また回廊西に接して礎石建物跡、さらに西には竪穴建物跡群も確認している。礎石建物は僧坊、竪穴建物群は周辺集落と推定された。なお、伽藍中枢部は現在寿楽寺本堂の建っている場所と考えられ、本堂背後に地表面が盛り上がる区画があって、金堂と塔跡の可能性がある。

#### 1-33 法隆寺



607年(推古 15年)、聖徳太子こと厩戸皇子(用明天皇の皇子)が父・用明天皇のために創建した。聖徳太子は推古 9年(601年)、飛鳥からこの地に移ることを決意し、「斑鳩宮」の建造に着手、推古 13年(605年)に斑鳩宮に移り住んだ。法隆寺の東院の場所が斑鳩宮の跡地である。

法隆寺の境内は全体が築地塀に囲まれ、西院と東院に大きく分かれる。寺の中心である西院伽藍には国宝の建物群、五重塔と金堂が並び、中門と大講堂をつないで回廊が囲む。

#### 1-34 飛鳥大仏



重要文化財 1940 年指定、名称「銅造釈迦如来坐像 (本堂安置) 1 躯」、像高は 275.2cm

『日本書紀』や『元興寺縁起』に見える「鞍作鳥(止 利仏師)」作の本尊像で、後世の補修がある。鞍作鳥 は、法隆寺金堂本尊「釈迦三尊像(623 年作)」の作者 でもあり、法隆寺の像の光背銘には「司馬鞍首止利」 とある。

飛鳥大仏像の完成は、『元興寺縁起』による 609 年 完成説が定説で『縁起』によると、当初、像には脇侍像 があると記される。

#### 1-35 月ヶ瀬 飛騨匠の碑



帰化人である鞍部多須奈が用材を求めて飛騨入りし、天生山中の月ヶ瀬(飛騨市河合町)に住む九郎兵衛の娘「忍」と結ばれて子供を授かった。生まれた子は鳥のような首をしていたので「鳥」と名付けられたという。その後、鳥は17歳で大和へ旅立ち、父多須奈に技術を習って彫刻師となって法隆寺の釈迦三尊像など数々の名作を刻み、止利仏師として名を残している。また、飛鳥寺(法興寺)の日本最古の仏像といわれる飛鳥大仏、釈迦如来像(606年)も止利の作といわれる。

## 1-36 桜山八幡宮



桜山八幡宮の創建は、遠く仁徳天皇の御代にさかの ぼる。飛騨の両面宿儺を攻めた難波根子武振熊命は、 飛騨への侵攻にあたって道沿いに八幡社を祀って戦勝 祈願をした。八幡社は先帝(御父君)応神天皇の尊霊 を祭神とする。

元和9年、高山の国主金森重頼は、江名子川から発見した御神像を八幡宮旧跡の桜山老杉の傍らに、応神天皇の御神体として奉安した。そこで早速社殿を再興、神領を寄進し、高山の安川以北を氏子と定めて神事を管理し、高山城下町の総鎮守社とした。

#### 1-37 両面宿儺



両面宿儺は高山市丹生川町が出生の地と伝わり、丹生川町の千光寺や出羽が平(現在の飛騨大鍾乳洞近辺)、日面の善久寺、武儀の日龍峰寺などに伝承がある。『日本書紀』では大和朝廷に背いた朝敵として扱われているが、飛騨や美濃の伝説では、宿儺は武勇にすぐれ、神祭の司祭者であり、農耕の指導者でもあった。

#### 1-38 森水無八幡神社



森水無八幡神社は、岐阜県下呂市にある八幡神社である。「森八幡神社」とも言う。

毎年 2 月に行われる田の神祭は、「田遊び」がその元となっているとされる豊作予祝祭であり、重要無形民俗文化財に指定されている。

## 1-39 位山八幡神社



創建年代は不詳。国説に、仁徳天皇六十五年、飛騨 国両面宿儺追討の勅命を奉じた武振熊命が、この地に 先帝応神天皇の尊霊を奉祀し、戦勝を祈願されたとこ ろで、祭場遺跡とある(「飛騨八幡八社」の一つ)。ま た、里伝に宮坂の現地と、森の幅、上馬瀬戸にあった 三社を、合併合祀したとも伝えられている。

#### 1-40 久津八幡宮



仁徳天皇65年(377) 勅命により難波子武振熊命が 飛騨国の両面宿儺を征討の途次應神天皇の霊を奉祀し たのを創祀とし平治の乱(259)役募兵のため飛騨に入 国した源義平が鶴岡八幡宮の神霊を勧請奉斎したのを 當宮の鎮座とする。

古くから飛騨二の宮南飛騨総鎮守と称され飛騨国中はもとより越中、美濃からも厚く崇敬されている。

#### 1-41 若宮八幡神社



創建の年代は詳らかでないが、相伝に「仁徳天皇六十五年(西暦 377)勅命を奉じて難波根子武振熊命が、両面宿儺討伐の時この地石浦(延喜式兵部省云、飛騨国駅馬云々、石浦五匹と見ゆ、上古よりの駅舎也)に屯軍して、先帝と今上の尊霊を奉祀して戦捷を祈念ありし斎場の遺跡ならん。」(『斐太後風土記』)とあり、また、『飛州志』には「一宮の棟札云長木は石浦若宮之杉本也々。享禄二年若宮上葺」とある。

## 1-42 東大寺



東大寺は、奈良県奈良市雑司町にある華厳宗大本山の寺院である。

金光明四天王護国之寺ともいい、奈良時代(8世紀) に聖武天皇が国力を尽くして建立した寺である。「奈 良の大仏」として知られる盧舎那仏を本尊とし、開山 (初代別当) は良弁である。

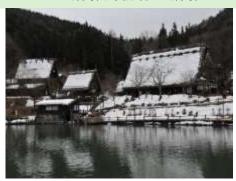
## 1-43 生きびな祭り



春のおとずれの遅い飛騨はひと月おくれの"ひなまつり"を迎えます。

このお祭りは、昭和27年、もともと蚕糸業が盛んだったこの地方で、春秋の2回蚕糸業祭がおこなわれて蚕糸業農家の年中行事となっていた養蚕豊鐃と地域農業の振興を祈念する春の養蚕業祭に、寒冷地のためにひと月遅れて行われるひな祭りをとり入れ、絹に象徴される女性の気品と幸福を祈念するために始まりました

#### 1-44 飛騨民俗村・飛騨の里



飛騨の里は、合掌造りをはじめとした飛騨の古い貴重な民家が移築復元されなつかしい農山村の暮らしや昔から飛騨に伝わる季節の行事を再現している博物館です。白川郷、五箇山の合掌造りを手軽に見ることができます。

## 1-45 日枝神社



遠く永治元年(1141)、時の飛騨守時輔朝臣が、ある日片野山中で狩りに出て、奇瑞のことがあったので、その城をかまえていた石光山(今の高山市片野地内)に近江の日吉大神を勧請して、城の鎮護としたのがはじまりである。その後、四代目景家の時、養和元年(1181)正月、源義仲の部将手塚光盛に攻められ、利あらずして敗亡、社殿も兵火にかかって消失したが、幸いにして御霊体は災禍をまぬがれ無事奉安することができ、里人によって社殿は再興され、片野村の産土神として奉祀されていた。

#### 1-46 寿楽寺廃寺跡



寿楽寺跡地は道路改良に伴い、岐阜県教育文化財団が平成十~十二・十五年度の四次にわたり発掘。結果、講堂基壇跡と回廊遺構が発見された。奈良時代より前の飛鳥時代に、既に飛驒には古代寺院があったことになる。飛驒匠がこの頃都へ宮殿などを造りに行き、優れた技術を持ち帰っていたことは、大きな歴史的事実である。

#### 1-47 杉崎廃寺



杉崎廃寺は宮川右岸の微高地上に位置し、水田の中に整然と並ぶ礎石群と塔心礎の存在が古くから知られていた。

これまでの発掘調査により、7世紀末葉に創建された白鳳時代の寺院跡であることが明らかになった。小規模ながら主要堂塔を備え、金堂の東に塔を配し、中門・金堂・講堂が直線上に並ぶ伽藍(がらん)配置は他に例をみない。金堂や講堂・鐘楼の礎石は創建当時の位置を保ち、伽藍全体の遺構がよく残されている点でも比類がない。

# 1-48 龍應山西明寺



琵琶湖の西岸の延暦寺が勢力を伸ばし始めた頃に天台宗になり、延暦寺の中心道場である根本中堂のご本尊の薬師如来が、琵琶湖を向いて安置されているので、薬師如来どうしが対面する様に西明寺のご本尊が延暦寺の方向に向いて安置されました。

戦国時代に織田信長は比叡山を焼き打ちしてその直後に当時も焼き打ちをしましたが、幸に国宝一号指定の本堂、三重塔、二天門が火難を免れ現在しています。

江戸時代天海大僧正、公海大僧正の尽力により、望 月越中守友閑が復興し現在に至っています。

#### 1-49 薬師寺



薬師寺は、奈良県奈良市西ノ京町に所在する寺院であり、興福寺とともに法相宗の大本山である。

南都七大寺のひとつに数えられる。本尊は薬師如来、 開基(創立者)は天武天皇。

1998年(平成10年)に「古都奈良の文化財」の一部として、ユネスコより世界遺産に登録されている。

#### 1-50 興福寺



興福寺は、奈良県奈良市登大路町にある、南都六宗の一つ、法相宗の大本山の寺院である。南都七大寺の一つに数えられる。藤原氏の祖・藤原鎌足とその子息・藤原不比等ゆかりの寺院で、藤原氏の氏寺であり、古代から中世にかけて強大な勢力を誇った。南円堂は西国三十三所第9番札所である。「古都奈良の文化財」の一部として世界遺産に登録されている。

## 1-51 上野東照宮



上野東照宮は 1627 年創建の東京都台東区上野公園に鎮座する神社です。東照宮とは徳川家康公(東照大権現)を神様としてお祀りする神社で、日光や久能山の他、全国に数多くございます。当宮は出世、勝利、健康長寿に特に御利益があるとされ信仰されています。金色殿(社殿)などの豪華な建造物は、戦争や地震にも崩壊を免れた貴重な江戸初期建築として国の重要文化財に指定されており、国内はもとより、海外からも多くの方がお参りされます。

## 1-52 霊雲寺



宗 派;真宗大谷派御本尊;阿弥陀如来

江戸初期 照蓮寺十三代宣明の弟、祐覚が開基し御坊 坂に堂を構えました

寛永 18 年(1641) 第二代祐意は照蓮寺十六世琢情 から金森公寄進の本尊を授けられ霊雲寺と号しのち現 在の地に移転したそうです

## 1-53 宗猷寺



宗猷寺は岐阜県高山市にある臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は真龍山。金森可重の菩提寺であり、山岡鉄舟ゆかりの寺院としても知られる。聖観音菩薩が祀られており、飛騨三十三観音霊場 6番札所となっている。

寛永 9年(1632年)に飛騨高山城主金森可重の菩提寺としてその嗣子の金森重頼と弟の金森重勝を開基とし、安国寺から妙心寺 92世南叟宗安禅師を招いて建立された。創建時は大平山新安国寺と称していたが、後に山号を金森重頼の法名、寺号を金森重勝の法名に因んで真龍山宗猷寺と改めた。

#### 1-54 雲龍寺



もとは 720 年に創建された妙観寺という寺院でした が衰退し、1395 年頃、曹洞宗雲龍寺として再建されま した。

本能寺の変で戦死した飛騨国主 金森長近の長男 長 則の菩提寺であり、1590 年頃に長近が建物を修営した と伝わっています。

#### 1-55 勝久寺



寺伝によると、円通は長享元年(1487)片野に円通堂を建て、西本願寺派越中八尾の聞名寺の末寺であった、その後小八賀の葦屋へ移り、高山町三町へ移転し正徳二年(1712)」に寺号を勝久寺とし、昭和5年現在地に改築。

#### 1-56 大雄寺



もとは吉城郡上広瀬村(現高山市国府町)にありましたが、1586年に金森長近によって、現在の地に移され、浄土宗の寺となりました。大雄寺山門(市指定文化財・日本遺産)は、「飛騨匠の祖」として崇敬を集める飛騨権守・藤原宗安の直系とされ、優れた彫刻を特徴とした水間相模の建築。大雄寺鐘堂(県指定文化財・日本遺産)は、1689年2月に建てられた飛騨地方最古の鐘楼で、江戸時代前期より活躍する大工の家系、松田家松田又兵衛作。

## 1-57 常照寺



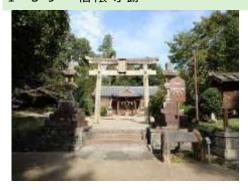
常照寺は、岐阜県高山市にある真宗大谷派の寺院で、山号は白龍山。往古、岩端小勝という武士が当地内の長倉というところに城郭を構えていたが、戦に敗れて出家し、了正と号して、真言の道に入りこの地に一宇を創建した。その後、本願寺実如上人に帰依して文亀2年4月2日、方便法身の尊行を賜り、真宗に転派した。これが常照寺の始祖で、以来、権四郎道場と称していた。正徳4年(1714年)6月14日、八世西圓のとき、本山より常照寺の寺号を受けて、真宗の教えを弘めて今日に至っている。

#### 1-58 石舞台古墳



この石舞台古墳は、横穴式石室を持つ方形墳で、築造は7世紀の初め頃と推定されている。すでに古墳上部の封土は失われ巨大な天井石が露出した姿になっている。被葬者は不明だが、6世紀後半にこの地で政権を握っていた蘇我馬子の墓ではないかといわれている。

#### 1-59 檜隈寺跡



明日香村大字檜前に所在する。現在は、渡来系氏族である倭漢氏の祖、阿知使主を祀る「於美阿志神社」が鎮座している。文献では、686年「檜隈寺・軽寺・大窪寺に各百戸を封ず。三十年を限る。」との記事が見られることから、この頃には建立されていたことが推定される。

#### 1-60 高松塚古墳



1972 年、発掘調査によって美しい壁画がみいだされ、有名になった古墳である。明日香村平田にある。径約 20m にすぎないが、粘土と砂を交互に一層ずつつきかためて築くなど飛鳥の古墳に特有の、特殊な構造を備えた終末期の古墳の一つである。造られた年代は7世紀末から8世紀初めと考えられている。石室の天井には星宿(星座)、周囲の壁には日・月、四神と従者を配し、死者が永遠の眠りにつく小宇宙を形成しており、中国思想に基づいて貴人の墓にふさわしく飾っている。

## 1-61 キトラ古墳



高松塚古墳に次ぐ我が国 2 例目の壁画古墳で、1983年の調査で石室内に描かれた極彩色壁画が発見されました。キトラ古墳は、藤原京の南に広がる古代の皇族・貴族などの墓域に所在する小さな円墳で、7世紀末~8世紀初頭頃に造られたと考えられます。東西にのびる丘陵の南斜面に位置し、墳丘は 2 段築成で、下段の直径が 13.8m、上段の直径が 9.4m に復元できます。墳丘の中央には、凝灰岩の切石を組み上げた石室があります。

## 1-62 光寿庵跡



高山市国府町上広瀬の諏訪神社北方の山中、上広瀬字屋舗一体を光寿庵跡といいます。長野県王滝村資料館にある鰐口の銘文に、光寿庵のことであると思われる記載があることから、永享8(1436)年まで現存していたことが立証されています。遺物では、人物戯画が線刻された平瓦や円面硯、飛騨地方で初の出土となった畿内産土器などが知られます。

#### 1-63 石橋廃寺



当寺跡は、江戸時代嘉永 2年に大坪二市が記した『廣瀬日記』に、「経堂ノマイジリ石在 鐘堂ノサウバン堂ヤシキ今ニアリ」とある。経堂ノマイジリ石とは、塔心礎を舞尻石と考えたのであろう。他の礎石も遺存していたらしく、堂ヤシキとして確認できる状況であったと考えられる。

塔心礎は、国府町広瀬町の岡村利右衛門宅の庭に保管された。後、1958年、水田区画整理により礎石が移動されたと考えられる。また、その時に大量の瓦が出土した。

#### 1-64 東寺



東寺は、京都市南区九条町にある東寺真言宗の仏教寺院。東寺は真言宗の根本道場であり、真言宗全体の総本山である。「教王護国寺」とも呼ばれる。山号は八幡山。本尊は薬師如来。寺紋は雲形紋(東寺雲)。東寺は平安京鎮護のための官寺として建立が始められた後、嵯峨天皇より空海(弘法大師)に下賜され、真言密教の根本道場として栄えた。中世以降の東寺は弘法大師に対する信仰の高まりとともに「お大師様の寺」として庶民の信仰を集めるようになり、21世紀の今日も京都の代表的な名所として存続している。

## 1-65 平安京跡



延暦 13 年 (794)、桓武天皇の命により長岡京から 遷都された平安京は、京都盆地のほぼ中央に東西約 4.5km、南北約 5.2km の規模で建設され、現在の京都 市の市街地の原型はこの時より形づくられていった。

## 1-66 近江大津宮跡



西暦 667年、天智天皇は新羅・唐の連合軍と対戦した白村江の戦いが敗北に終わった後、突然都を飛鳥から近江に移した。この近江に営まれた宮が大津宮である。天智天皇は律令制に基づいた天皇を中心とする統一国家を作ろうとしたが、遷都後わずか 5 年でこの世を去り、その後に起きた壬申の乱によって大津宮自体も廃墟となってしまった。わずか 5 年 5 カ月の短命の都であった。

#### 1-67 長岡宮跡



京都府向日市鶏冠井町にある宮殿跡。京都盆地の西端を南流する桂川の右岸、淀川との合流点に近い向日丘陵に位置する。長岡京は桓武天皇の命により、784年(延暦 3)に平城京から遷都し、平安京に移るまでの10年間、都であった。従来「幻の都」とされてきたが、1955年(昭和30)に朝堂院の門跡が、1962年(昭和37)には大極殿跡が発掘されたところから、1964年(昭和39)に国の史跡に指定された。

## 1-68 難波宮跡



『日本書紀』や『続日本紀』に記された難波宮の所在地は、昭和29年(1954)から開始された、山根徳太郎を中心とする発掘調査により、現在の史跡指定地にあることが明らかにされました。

その後の調査により、2 時期の宮殿遺構があることがわかり、それを前期難波宮、後期難波宮と呼び分けています。前期難波宮の遺構には火災痕跡があり、朱鳥元年(686)に焼失した天武天皇の難波宮にあたり、その創建は「大化改新」ののち、孝徳天皇により造営された難波長柄豊碕宮と考えられています。。

#### 1-69 石山寺



滋賀県大津市石山寺辺町にある真言宗御室派の寺院。西国観音霊場三十三所第 13 番の札所。山号は石光山。天平勝宝年間(749~757)、聖武天皇の勅願による良弁僧正の開基と伝える。しかし実際は大仏殿建立の用材採集の事務を司る石山院を建てたのが始りという説が有力。平安時代に醍醐寺の聖宝、観賢、淳祐らが再興し、公家貴族の崇敬を集め、石山寺詣が盛大に行われた。平安時代の古式を残す本堂、鎌倉時代の多宝塔(ともに国宝)などの建造物、仏像仏画、聖教類、『石山寺縁起絵巻』など多くの文化財を所蔵している。

## 1-70 東山道・赤坂宿



赤坂宿は東山道時代から杭瀬川の舟待ち宿として存在していた杭瀬宿が発展したもので、江戸時代に川港 (赤坂港)が整備されると物資の集散地として一層の 賑わいとなった。

この賑わいは明治に入っても続き、往時は三百隻も の舟がもやっていたとも言われている。この賑わいも 鉄道の開通とともに衰微していった。

#### 1-71 紫香楽宮



紫香楽宮は、今からおよそ 1,250 年前の奈良時代中頃、滋賀県甲賀市信楽町の北部に聖武天皇が造営した都です。

天皇は奈良の都(平城京)で政治を行なっていましたが、天平 12 (740) 年 10 月末に奈良の都を離れ、年末には奈良の北(今の京都府木津川市加茂町)とその周辺に新しい都を造り始めました。この都が恭仁京です。恭仁京の建設が進められている間、恭仁京から甲賀郡紫香楽村に通じる道(恭仁東北道)が開通し、天皇は紫香楽村に離宮を造り始めました。

# 1-72 恭仁京



恭仁京は、奈良時代に聖武天皇によって造られた都である。当時、たびたび疫病や戦乱に見舞われ、世情不安の中、こうした事態を打開するためか、聖武天皇は、奈良の平城京を離れ、各地を転々とした後、天平12年(740)に現在の加茂町瓶原の地を中心に新都を定めた。しかし、恭仁京は天平16年(744)にわずか4年あまりで廃都されてしまう。

## 1-73 東山神明神社



東山神明神社は岐阜県高山市天性寺町に鎮座している神社です。東山神明神社の創建は不詳ですが、古くから飛騨国主や歴代領主から崇敬庇護され、錦山神社、東山白山神社と共に東山三社に数えられました。

絵馬殿は元々高山城の月見殿だったと伝わる建物です。月見殿は元禄5年(1692)、高山藩6代藩主金森頼時が出羽国上山藩(現山形県上山市)に移封に伴い元禄8年(1685)に高山城が取り壊しとなり東山神明神社境内に絵馬殿として移築されたそうです。

## 1-74 田上家住宅



高山市丹生川町根方にある農家建築で、田上家当主田上太郎四郎が、明治 12 年に高山の日下部邸(国指定重要文化財)を完成させた棟梁川尻治助に依頼して建てさせたものである。着工は明治 15 年(1882 年)で、完成までに 12 年の歳月を要したといわれる。明治 15 年の年号入りの板図や、川尻治助が使用した大工道具も残されており、建設当初の事情が明らかである。

主屋は桁行 12 間半 (23.30m)、梁間 7.5 間 (13.72m) と大規模な農家である。

#### 1-75 日光東照宮



日光東照宮は、元和3年(1617)徳川初代将軍徳川 家康公を御祭神におまつりした神社です。

家康公は、元和 2 年 4 月 17 日駿府城(静岡県静岡市)で 75 歳の生涯を終えられ、直ちに久能山に神葬されました。そして御遺言により、一年後の元和 3 年 4 月 15 日、久能山より現在の地に移されおまつりされました。

#### 1-76 二荒山神社



かつての下野国(現在の栃木県)の神である二荒神に関係する神社である。二荒山神社・二荒神社は、二荒神を祀って建立された神社、または二荒山神社を勧請して建立された神社である。延喜式によると、下野国河内郡には名神大社二荒山神社が鎮座していた。また六国史によると836年(承和3年)に当時従五位上であった二荒神が正五位下を奉授(『続日本後紀』)しており、その後進階を重ね869年(貞観11年)には正二位に達している(『日本三代実録』)。

#### 1-77 日光山輪王寺大猷院



日光山輪王寺にある 3 代将軍家光の霊廟で世界遺産 に登録されています。

大猷院とは家光の法号のこと。祖父である家康を心から深く尊敬していた家光の、死後も家康に仕えるという遺言により、4 代将軍家綱によって建造されました。東照宮に比べて規模が小さく華やかさは抑えられていますが、建物は本殿、相の間、拝殿が国宝となっているほか、壮麗な二天門、竜宮城を思わせる皇嘉門など見どころがたくさん。東照宮とはまったく違う趣となっており、目立たない部分に技巧が凝らされているのが特徴です。

## 1-78 下原八幡神社(水無八幡宮)



本殿の左側の注連を廻らした大岩を、昔から猫の形に似てもいないのに「ねこ岩」といっている。武振熊がこの大岩の上に八幡様を勧請されたので、難波根子武振熊命の「ねこ」から来たものといわれている。「根子岩」の横に国指定天然記念物で直径 4mの「神代杉」と、傘のような大杉で乞食が年中いたという「乞食杉」や、穴がいくつもあってくぐることが出来た「蓮根杉」があったが、昭和 24 年、濃斐中学建設資金として伐倒された。

## 1-79 乗政八幡神社



『斐太後風土記』によると、第 16 代仁徳天皇の 65 年、両面宿儺追討の際、武振熊命が中津原をはじめとして、官道のところどころに先帝応神天皇の尊霊を祭祀した、「飛騨八幡八社」の 1 であると言われている。

古来飛騨国内における有名社で、応永年中(1394~1427) 三木氏の崇敬厚く、戸田釆女正による元禄検地には、1町9畝13歩の境内除地を受けた。また、千古不伐の森として杉・桧などの古木が鬱蒼としていたが、第2次大戦後、伐採などにより皆無の状態となり、境内また縮小して旧観もなくなった。

#### 1-80 日龍峯寺



本堂は間口 6 間 (15.6m) 奥行 5 間 (12.6m) の入母屋 (いりもや)造りで、高澤山中腹の岩上傾斜地に建立されている。前方は舞台造りで京都の清水寺によく似ており、美濃の清水として親しまれている。寺伝では鎌倉尼将軍 北条政子寄進であったが、惜しくも応仁・文明の乱の戦火により焼失したと言われる。現在の本堂は寛文 10 年の建造物である。

#### 1-81 飛鳥寺



『日本書紀』によれば、崇峻天皇元年(588)に蘇我 馬子は法興寺を建立することを計画、同5年には仏堂 (金堂)・歩廊(回廊)が完成、推古天皇元年(593) には塔を起工し、同4年には一応の建物が完成した。

大化改新や天皇の病気平癒など飛鳥時代を通じて飛鳥における中心的な役割を果たしたが、建久 7 年 (1196) に消失し、現在に至る。法興寺・元興寺とも称され、現在は止利仏師の作と伝える重要文化財の金銅丈六仏が残る。

## 1-82 福原京



福原京は、平安時代末期の治承 4 年(1180 年)、計画のみに終った和田京に続いて、平清盛の主導で造営が進められた日本の首都の通称。

1180年6月、平清盛の強い意向で、現在の神戸市兵庫区平野の地に、天皇・上皇以下が大挙して訪れた。 やがて、都造りが計画されたが、途中から反平氏勢力の挙兵がはじまり、遷都反対も根強く、未完に終わって、約170日の後、京都に帰還します。これを福原遷都とよんでいる。

#### 1-83 第一次平城宮



和銅元年(708)から、平城京の建設が本格的に始まった。2月、「まさに今平城の地は、四禽図に叶い、三山鎮をなす、亀筮ならびに従う、よろしく都邑を建べし」という詔が元明女帝から発布される。3月には閣僚の人事異動が発令され、左大臣石上麻呂・右大臣藤原不比等・大納言大伴安麻呂らトップのもとに、造宮卿として大伴手拍が任命された。9月、多治比池守が造平城京司の長官に併任され、10月になると伊勢大神宮に使者を送って造営の安全を祈願する。11月、平城宮予定地内に住む菅原の農民90余家を移転させ、12月になってようやく平城の宮地で地鎮祭を行なった。

## 1-84 第二次平城宮



平城宮の第2次大極殿と内裏

神である天皇が起居する特別の宮殿が内裏。天皇と 貴族および役人が儀式と政治を行なう場所が、大極殿 である。掘立柱・檜皮葺き・白木造りの建物で構成さ れる内裏が伝統的な生活様式に従っているのに対し て、大極殿は礎石・瓦葺き・朱塗り柱という唐風の様 式をとり、7世紀になってから加わった新式の宮殿。

つまり平城宮は和唐折衷の宮城なのである。

#### 1-85 藤原京



大宝元年(701)正月、文武天皇は藤原宮の大極殿に 出御し、群民の賀正の礼を受けた。『続日本紀』はその 様を「その儀、正門に烏形の憧を樹つ。左に日像・青 竜・朱雀の幡、右に月像・玄武・白虎の幡。蕃異の使者 左右に陳列す。文物の儀ここにおいて備れり」と特筆 している。

天武天皇によって計画され、その死後夫の遺志を継いだ持統天皇によって完成した藤原京は、持統 8 年 (694) 12 月の遷都以来、和銅 3 年 (710) 3 月の平城京遷都まで、持統・文武・元明 3 代の宮都となった。

## 1-86 飛鳥浄御原宮(板蓋宮を含む)



推古天皇から持統天皇に至る7世紀の約100年間、 飛鳥地方には歴代天皇の宮がつぎつぎと造営された が、その遺跡はどれもまだ確認されていない。そのう ち皇極天皇の飛鳥板蓋宮については、この付近とする 伝承があり、昭和34年以来、主に橿原考古学研究所に よって発堀調査が続けられてきた。

その結果、掘立柱列で囲まれた東西約 156m、南北約 197m の長方形の区画 (内郭) と、その南半では中軸線上に位置する 5 間×2 間の門と、7 間×4 間の建物、北半では高床式の大きな建物や大井戸など多くの遺構が検出された。

## 1-87 豊浦宮



603 年推古天皇が豊浦宮から小墾田宮に移った後に、豊浦寺を建立したとされている。近年の発掘調査で、寺院の遺構に先行する建物跡がみつかり、これを裏付けている。552 年(欽明天皇 13 年)百済の聖明王が朝廷に献上した金銅の釈迦佛(日本初渡来の仏像)を蘇我稲目がたまわり、向原の家を浄めて寺としたのが始まりで日本初の寺とされている。

しかし、その後疫病が流行した時、災害は仏教崇拝 によるという理由で、物部氏により仏像は難波の堀江 に捨てられ、寺は焼却されたという。

## 1-88 難波長柄豊崎宮



難波長柄豊碕宮は、摂津国難波にあった飛鳥時代の宮。難波長柄豊崎宮、難波長柄豊埼宮とも表記する。 学術的には、この宮跡に建てられた難波宮(後期難波宮)と区別して前期難波宮とも呼ばれる。

現在、難波宮の跡地の一部は、難波宮史跡公園となり、大阪城の南に整備されている。前期・後期の遺跡を元に建物の基壇などが設置されている。

## 1-89 飛鳥川原宮(橘寺)



奈良県高市郡明日香村にある天台宗の寺院。正式には「仏頭山上宮皇院菩提寺」と称し、本尊は聖徳太子・如意輪観音。橘寺という名は、垂仁天皇の命により不老不死の果物を取りに行った田道間守が持ち帰った橘の実を植えたことに由来する。新西国三十三箇所第 10 番札所。

橘寺の付近には聖徳太子が誕生したとされる場所があり、寺院は聖徳太子建立七大寺の1つとされている。 太子が父用明天皇の別宮を寺に改めたのが始まりと伝わる。

## 1-90 飛鳥川原宮(川原寺)



川原宮は、7世紀中期の斉明天皇が営んだ宮。一般には飛鳥川原宮と呼ばれている。奈良県明日香村川原にある川原寺(弘福寺)の地にあったと伝えられている。川原寺の下層からは、寺建立以前の大規模な整地層や石組溝・マンホール状施設などが部分的に見つかっており、川原宮の有力な候補地となっている。おそらく豊浦寺のように、川原宮の跡地に川原寺を建立したのであろう。

#### 1-91 塔の腰廃寺



古くからこの地に瓦が出土し、国分尼寺とする言い伝えもある。塔の前、塔の本の小字が以前はあった。 現在は区有地 120 坪が残り、大坪東平の名作大日如来をまつって、「大日の森」と呼ばれている。

#### 1-92 上町廃寺



重圏文縁軒丸瓦(2)と九弁軒丸瓦(3)が塔の腰廃寺と 共用される。また、十弁軒丸瓦(3の類型で、弁が二重 線となるもの)が古町廃寺と共用される。

重圏文縁軒丸瓦は丸山古窯の生産、間弁端に独得の飾りを施す軒丸瓦群は釜洞古窯の生産である。

## 1-93 古町廃寺



古川町は、地勢的には飛驒高地のほぼ中央部にあり、周囲を標高 1,000m 前後の山々で囲まれ、町の中央部に古川盆地が開け、西寄りを飛驒高地南部の分水嶺から流れる宮川が南東から北西へ貫流する。盆地内では東西両山地から荒城川や太江川、宇津江川、殿川などの中小河川が宮川に合流し、途中さらに高原川と合流して神通川となって富山湾へ注ぐ。当遺跡は、宮川と荒城川の合流地点を中心に広がる古川盆地の中央、宮川右岸に位置する。海抜は約 500m、宮川とは 120~160m の距離をもつ。

#### 1-94 沢廃寺



古川盆地の東側、西向きの扇状地に立地し、古川盆地を見おろす好所であったが、県立吉城高校グラウンドの造成工事で全体が滅失している。発見遺物は、寿楽寺廃寺や中原田古窯跡に出土しているものと同笵の、単弁八弁蓮華文軒丸瓦がある。年代は7世紀中葉の寺院である。

#### 1-95 山田寺



桜井市大字山田に所在する。文献によれば、蘇我倉山田石川麻呂が 641 年に発願した氏寺であり、649 年には金堂が、天武朝になって塔や講堂が完成したとされる。685 年には天武天皇の行幸があったので、この頃までには伽藍が整っていたのではないかと考えられている。奈良時代には記載がないが、平安時代に入ると藤原道長が参詣した記録がある。1187 年には興福寺の僧兵によって丈六仏が奪い去られており、衰微していったと思われる。

## 1-96 石神遺跡



水落遺跡とは東西大垣によって区切られるが、その 北に広がるのが石神遺跡である。明治 35・36 年にはこ こから噴水石造物である須弥山石と石人像が掘り出さ れている。遺跡は大きく A~C 期の 3 時期に区分され るが、A 期が斉明朝、B 期が天武朝、C 期が藤原京期 で、A 期が最も建物のまとまりがある。遺跡は南限を 水落遺跡との間の大垣で区切られ、ここから 180m 北 で北限の大垣がある。遺跡の内は大きく東西ふたつの まとまりのある区画に分かれており、西区画は廊状建 物で囲まれた遺跡の中心区画で南北 110m、東西 70m である。

#### 1-97 甘樫丘



甘樫丘は、古くは日本書紀などの中にもその記述が 見られ、7世紀前期には当時の有力者であった蘇我蝦夷、入鹿親子が大邸宅を構えていた場所であるとも言 われている。地区内には、眼下に飛鳥古京(明日香村 内)の集落、北側に大和三山とその中央に位置する藤 原京(橿原市内)さらに遠くの生駒山、二上山、葛城 山、金剛山系の山並みを望める展望広場(標高 148m) や、万葉集などに歌われた植物を散策しながら楽しめ る万葉植物園路などを設けている。

## 1-98 野洲



古代〜現在の郡名。近江国 12 郡の 1 つ。郡名の初見は「持統紀」7年 11 月己亥の条。「日本書紀」に「益須郡」、「山背国愛宕郡計帳」に「夜珠郡」、「和名抄」に「野洲郡」とあり、「古事記」には「安国造」が見える。地名は「谷(やつ)」の転訛で、谷のある地形から起こるとする説(上代語辞典)、「ヤ(沼地)ス(洲)」から起こるとする説(地名の語源)などがある。東に蒲生郡、南に甲賀・栗太両郡をひかえ、西北二方は琵琶湖に臨む。郡の大部分をなす平地部は、野洲川と日野川が形成した扇状地性の沖積平野で、湖岸に三角洲が発達する。

## 1-99 五箇荘



五個荘は「山前五個荘」駅があったと推定

山前荘は鎌倉期から見える荘園名。神崎郡のうち。 山前荘は繖山の東麓に展開する地域で、一般には「山 前五個荘」と称されている。五個は空閑の転訛。

元亨3年の「室町院譲状」では、山前荘は南荘・北 荘・東荘・橋爪荘・新八里荘からなっており、「與地志 略」は、川並・金堂・市田・北荘・七里・石馬寺・位田・ 石川・五位田・下日吉・町家の11か村が荘域に含まれ るとしている。

#### 1-100 不和の関



東山道の美濃不破関は、東海道の伊勢鈴鹿関、北陸 道の越前愛発関とともに、古代律令制下の三関の一つ として、壬申の乱 (672 年) 後に設けられたとされて いる。

延暦8年(789)に停廃されて後は関守が置かれ、平 安時代以降は、多くの文学作品や紀行文に関跡の情景 がしきりと記されてきた。

## 1-101 美濃国分寺



美濃国分寺は、美濃国府(不破郡垂井町府中)や不破関(同郡関ヶ原町松尾)に近い、ここ青野原の景勝地に建立された。背後に青野山がひかえ、南は東山道に面して建てられた国分寺は、わずかに塔跡を残すのみで地中に埋もれていたが、昭和43年度(1968)から始まった発掘調査によって、伽藍の大部分が明らかとなった。伽藍の範囲は東西230m、南北250m以上で、周囲には築地大垣をめぐらせていた。

## 1-102 長良北町



飛騨支路・長良北町 長良 <ながら・岐阜市> 長良川中流右岸に位置する平坦地。対岸に金華山がそ びえる。

## 1-103 下之保



#### 飛騨支路・下之保

下之保 <しものほ・関市武儀町> 下保とも書く。長良川支流津保川流域の山麓、津保谷の入口付近に位置する。地名は、津保川流域を上・中・ 下に分け、下流部に当たることによる。

## 1-104 神渕



# 飛騨支路•神渕

神淵 <かぶち・加茂郡七宗町>

飛騨川支流神淵川の上流域に位置する。東北部の天王山(御佩山とも)上に神淵十郷の総社御佩大明神(神淵天王社)が鎮座。古代は御佩郷のうちといい、岸家の伝えによれば、天暦8年年義公元綱が同郷の中央に牓示を立て、安貞元年御佩郷を神淵・麻生・村君・津保の4邑に分けたという(神淵八十年史)。

## 1-105 菅田



飛騨支路・菅田駅 すがた 菅田<下呂市金山町> 馬瀬川支流菅田川流域に位置する。

## 1-106 金山



飛騨支路・金山 かなやま 金山<下呂市金山町>

益田・馬瀬両川合流点付近一帯。濃飛両国の境で、飛 騨益田郡、美濃郡上・加茂・武儀の各旧郡の接する地。 地名の由来は、昔当地で金が採鉱されたことによると いう(金山町誌)。古くは「延喜式」にすでに「金山河 渡子」が見えている。木曽川の支流飛騨川がその支流 郡上川と合流する箇所に、金山湊がある。

# 1-107 下原八幡神社



本殿の左側の注連を廻らした大岩を、昔から猫の形に似てもいないのに「ねこ岩」といっている。武振熊がこの大岩の上に八幡様を勧請されたので、難波根子武振熊命の「ねこ」から来たものといわれている。「根子岩」の横に国指定天然記念物で直径 4mの「神代杉」と、傘のような大杉で乞食が年中いたという「乞食杉」や、穴がいくつもあってくぐることが出来た「蓮根杉」があったが、昭和 24 年、濃斐中学建設資金として伐倒された。

#### 1-108 火打峠



飛騨支路・火打峠(ふくらい ひうちとうげ) 下呂市市金山町福来

益田川流域左岸、中津原の北に位置する。東方へ谷に沿って奥洞・野首の集落があり、火打峠を越えて火打に出る。江戸初期には支村名野首をもって称した例もある。

## 1-109 乗政



#### 飛騨支路 • 乗政

のりまさ 下呂市下呂町乗政

初矢峠を過ぎるといったん下り少し上ると平坦な地形になって、川合平園地にたどり着く。そこにはアズマヤやトイレがあり、そこから下ると乗政集落に出る。 乗政は則正とも書いた。竹原川支流乗政川の流域に位置する。地名の由来は吉川遠江守則正が当地に居城を築いたことによるか(飛騨遺乗合府・後風土記)。

## 1-110 初矢峠の石畳



飛騨と美濃を結ぶ街道を東山道支路、東山道支路と 東山道(後の中山道)を結ぶ街道を南北街道と言い、 これを土地の人が鎌倉街道と呼んでいたことから、別 名、鎌倉街道石畳とも言う。この石畳は、東山道支路 の初矢峠に、幅 2m、延長 80.4m が現存している。い つできたのかは不明であるが、東濃と飛騨の国境「舞 台峠」にもわずかの石畳が残っていること、南北街道 の傍らに源頼朝が願旨建立した「鳳慈尾山大威徳寺跡」 があることなどから、鎌倉時代にはあったと考えられ る。

#### 1-111 下呂解脱観音



## 飛騨支路 • 下呂解脱観音

下呂市下呂町森(駅家推定地)を過ぎた飛騨支路は、下呂市小川の解脱観音ところから山道となる。解脱観音の脇を上がるとすぐに石畳の道が始まり、初矢峠へとつながる。

初矢峠と解脱観音との中間には、石垣を積んだ敷地 の建物跡があった。随分前に廃村となったのであろう。 巨大な岩もあって、頂部には祠が祀られている。

## 1-112 下呂



## 飛騨支路・下呂

下之留がなまって下呂になったと推定されている。 下呂町森、湯ノ島村は益田川流域左岸に位置する。森、 湯ノ島村の内、どちらの方に駅家があったのかは分か らないが、森八幡神社の歴史は古く、森村あたりと思 われる。

「後風土記」は「上代より松森神社の坐村なれば名に負ひし歟」とする。松森水無八幡宮は往古社宮司宮と称し、当地に来住した郡司田口氏の氏神であったが、のち下呂郷6か村の鎮守としたという。

## 1-113 上呂



飛騨支路・上呂

じょうろ 下呂市萩原町

益田川左岸の段丘上に位置する。東は急峻な山を背にし、西は益田川の広い川原をはさんで羽根と相対する。旧来の益田街道は現在の国道と左右に離合しながら南の萩原方面より北進し、宮田を経て小坂に達していた。古代は上呂より尾崎に渡り、山之口川に沿って上る位山峠を越すのが官道で、地名の由来は古代の駅伝制の上留駅が音読され、用字が変化したのであろうという(後風土記)。

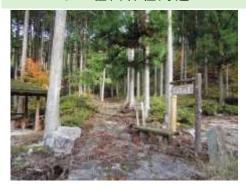
#### 1-114 あさんず橋



奈良時代の頃より、飛騨の国府(飛騨の国の中心地) から都へ上る本街道は「位山官道」と呼ばれ位山峠を 越えて山之口から尾崎まで来て、ここから益田川を越 して対岸の宿場「上留」(今の上呂)へ渡り、萩原を通 って美濃の国の東山道へと通じていた。

ここに「あさんづの橋」が架けられたのはいつ頃であったのかはっきりしないが、今から 400 年ほど前の天正年間(1573~1592)、飛騨の国の領主となった金森長近によって、現在の小坂町・久々野町を通る新しい道が開かれたため、険しい位山峠は通らなくてもよくなり、やがてこの橋も廃止になった。

#### 1-115 位山神社周辺



飛騨支路・位山神社周辺

位山神社の由緒(山之口村誌による)

今から約250年前、山之口村の百姓で農業の間に杣稼ぎをなす、文吉という者が、位山街道を幕府の役人が絶えず往来するのみでなく、高山方面に所用のある一般人の通行も頻繁であり、また山稼ぎをなす人も多数あるので、皆の安穏を祈念して自分で2尺位の白木丸太に神像を彫刻し、石築きの祠を造り、大山祗命と称し祭祀したのが始まり。天保年間に至り、村内協議の上、小さな社殿を建て守護してきた。

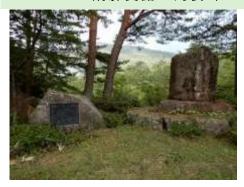
## 1-116 位山峠の石碑



飛騨支路・位山峠の石碑

くらいやまとうげ 位山峠 下呂市萩原町 下呂市萩原町山之口の北部にある峠。位山分水嶺の南 東に位置し標高 1,095m。明治中期までは萩原から位山 峠・苅安峠を経て宮村に至る位山街道がよく利用され たが、飛騨川沿いに北上して宮峠越えに宮村に至る国 道 41 号が開通してさびれた。

#### 1-117 飛騨支路・苅安峠



位山舟山県立自然公園(苅安峠)

位山舟山県立自然公園は、位山(1,529m)・舟山(1,480m)・川上岳(1,626m)に囲まれた自然公園で、 宮村、久々野町、萩原町にまたがっている。

ここ位山分水嶺公園のある苅安峠は、乗鞍岳から宮 峠、位山から川上岳に伸びる日本海側と太平洋側を分 ける分水嶺上に位置する。この地は、かつて飛騨の工 が都へ通った昔の官道(位山道)が通っていた所でも ある。

## 1-118 三仏寺廃寺



当遺跡が立地する三福寺町は、大八賀川右岸にあって、高山市内旧市街地の北方にあたり、北山という小山を間にはさんでいる。「三福寺」という地名は江戸・金森時代以後のことで、それ以前は三仏寺と称されている。後代の諸文献には、古い時代に三仏寺という寺院があったと記される。元禄水帳には、「どうのまえ」「じょうど」「もんぜん」等の小字が見え、布目瓦が周辺畑地や水田から多く出土している。

#### 1-119 東光寺跡



漆垣内地内字とうこうじの山上に永禄年間まで東光寺 という真言寺があった。

昭和5年6月岡村利平が、今井孫康、森久一郎らの 案内で実地踏査した記事が飛騨史壇昭和5年8月号に 出ている。記事の概要は

この跡地は元服山続きの台上で、東南西は低く眺望開闊、寺は南面したものであろう。今は畑地となっているが布目瓦が出る。この日も今井君が破片を1個拾った。この跡地の畑から金銅製の釈迦の像がかつて出土した。

## 1-120 名張廃寺



所在地 岐阜県高山市国府町名張道玄

立地環境 宮川左岸の平地にあり、石橋廃寺の対岸に 位置する。浄覚寺の西側微高地にあり、周辺には十二 相古墳がある。

発見遺物 過去に採取された瓦が一括一之宮神社に所 蔵されている。

## 1-121 堂前廃寺



昭和39年の土地改良整備事業の時に、木曽垣内の中村健一によって軒丸瓦、丸瓦、平瓦等50数点が採取されている。昔から古い寺があったと古老は伝えている。

今回の町史編纂のための遺物調査によって、新しく発見された遺物である。単弁軒丸瓦の1種類(第34図の1)である。弁は6弁で先は丸く弁の中央に突線を持つ。弁と弁の間に小さな間弁をもつ、中房は欠損していて不明。外縁は素縁である。本軒丸瓦の形式はほかの寺院にない独特の紋様である。弁の中央に突線(鎬しの)を有する紋様は、高句麗様式の瓦当紋様に端を発する。

# 1-122 平安京船岡山・建勲神社



■船岡山(全山史跡、風致地区)

船岡山は標高 45m、周囲 1,300m、面積 25,000 坪の 優美な小山であり、その東南側は建勲神社境内で特に うっそうとした森に被われている。豊臣秀吉の頃より 信長公の霊地として自然がそのまま残され、京都盆地 特有の樹相がよく保たれている。樹種が極めて多く、 帰化植物がほとんど入り込んでいない京都市内で数少 ない貴重な森とされている。

■建勲神社(たけいさおじんじゃ) 御祭神 織田信長公

#### 1-123 平安京 大極殿



平安宮は大内裏とも称し、国政・儀式・年中行事などを行なう宮殿や諸官衙(役所建物)と天皇に関わる生活空間からなり、今日の東京の皇居と霞ヶ関界隈に点在する役所を合わせたようなものである。その規模は南北約 1.4km、東西約 1.2km あり、周囲は築地や壖地(犬走)・隍(濠)で厳重に囲み、14 の門があった。

# 1-124 平安京 羅生門跡



平安京のメインストリートである朱雀大路の南端に設けられた、都の表玄関にあたる大門で、この門を境に京の内外を分けた。弘仁7年(816)に大風により倒壊し、その後に再建されたが、天元3年(980)の暴風雨で再び倒壊した後は再建されることがなかった。11世紀前半に藤原道長が法成寺造営のため、門の礎石を持ち帰った記述が『小右記』にあり、この頃には門の礎石や基壇のみの姿となっていたと思われる。

## 1-125 匠の道・平城京



#### ■高御座

第一次大極殿の内部には、高御座と呼ばれる天皇の 玉座が置かれていた。高御座は、皇位を象徴する重要 な調度で、天皇は即位式や元日朝賀などの国家儀式の 際に、大極殿に出御して高御座に着座した。貴族は、 大極殿の南に広がる内庭に立ち並び、大極殿の天皇を 拝した。

高御座は、国家儀式の際に天皇が着座した玉座である。奈良時代の高御座の構造や意匠に関する記録はなく、詳細は不明である。

#### 1-126 椿井大塚山古墳



飛騨匠が通った山科から奈良までの途中にある古い 古墳で匠たちはこの古墳を横目に見ながら飛鳥、奈良 へと進んだ。

#### 1-127 匠の道・蟹満寺



蟹満寺は現在真言宗智山派の寺院であるが、その創建は古く7世紀後半(白鳳時代)にさかのぼる。"蟹の恩返し"で有名な蟹満寺縁起は、『今昔物語集』などに収録されており、かつて「蟹満多寺」「紙幡寺」などと記されている。これは、この地が相楽郡蟹幡(加無波多)郷に属していることに由来しており、蟹満寺もこの郷名を冠した寺院であったと考えられている。

#### 1-128 匠の道・瀬田の唐橋



中山道・東海道は瀬田の唐橋を渡る

滋賀県大津市瀬田-唐橋町の瀬田川に架かる橋。全長 223.7m (大橋約 172m、小橋約 52m) で、滋賀県道 2 号大津能登川長浜線がこの橋を渡る。

京都の宇治橋、山崎橋とならんで日本三大橋(日本三名橋・日本三古橋)の1つとされてきた。また、近江八景の1つ「瀬田の夕照(勢田夕照)」として知られる。1986年(昭和61年)8月10日の道の日には、旧・建設省と「道の日」実行委員会により制定された「日本の道100選」にも選ばれている。

#### 1-129 東山道・草津宿



東海道と中山道が合流する草津宿

東海道は、中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中を加えた五街道の中でも江戸と京を結ぶ江戸時代随一の 幹線路であった。

その里程は、江戸日本橋から相模小田原宿を経由、 箱根の関・大井川を越え、遠州灘沿いに西進し、伊勢 桑名宿を経て、鈴鹿峠から近江に至り、土山・水口・石 部・草津の各宿を経由、勢田橋を渡り、大津宿を経て 京三条大橋に至るもので、東海道五十三次と称された。

## 1-130 東山道・守山宿



守山宿 <もりやましゅく・守山市>

中山道の宿駅名。宿名は、鎌倉期には「十六夜日記」、 室町期には「実暁記」に、守山宿として見え、当時は東 海道の宿駅であった。江戸期は宿高 2,019 石余。町並 み 11 町 53 間余。天保期の人口 1,700・家数 415。本 陣は東町と中町に 1 軒ずつ。脇本陣は西町に 1 軒。旅 籠 30 軒。地子免なし。

## 1-131 飛騨匠伝説(郡上・立花六角堂)



旧郡上街道地蔵坂峠に建つ立花六角堂は、由緒書きによると応長元年(1311)飛騨の大工匠頭肥前権守藤原朝臣宗康が御堂を建て直したとある。

## 1-132 飛騨の版画



# ■飛騨版画

良い指導者(しどうしゃ)がいた。

飛騨の人たちは、木を彫り、細工することになじん でゆける。

飛騨(ひだの)匠(たくみ)を皆が意識している。

冬は長く黒と白の世界が広がる。白黒の版画と同じ 風景。

## 1-133 飛騨の木製飛行機



#### ■木製飛行機(キ 106)製作の足跡

陸軍四式戦闘機「疾風」を原型に製作した木製飛行機昭和 17 年夏頃より 浜松の河合楽器の指導にて、飛騨木工㈱で木製落下タンク (2 型 200 % 45cm 1.68m)の製造開始

以降、19年から4型、20年7月からは6型を製作)

## 1-134 郡上長滝寺と飛騨匠



天台別院長瀧寺と藤原宗安

自山中宮長瀧寺は、奈良時代の養老年間(717-724) 越前の僧泰澄の創建とされ、平安時代から白山信仰の 拠点となる。明治維新の神仏分離令で長滝白山神社と 白山長瀧寺となり、荘厳な伽藍殿堂が林立した白山中 宮長瀧寺は、明治 32 年(1899)4 月 10 日の大火によ り堂社のほとんどが焼失したが、境内には石灯籠や堂 塔の礎石など中世寺院遺構が点在する。幸い大正から 昭和にかけて神社本殿と拝殿、長瀧寺の講堂などがも との場所に再建され現在に至っている。

#### 1-135 近代建築の名工・坂下甚吉



彼の残した偉大な業績について『技・巧・人 阪下 甚吉』 (平成6年 阪下ゆかり編集発行)が詳しい。

高山及び近郊の近代に建てられた建築物を調べると、その多くが名工の惚れ高い阪下甚吉の手によるものであることが多い。「阪下甚吉」とは代々続いた工匠の名前で、その詳細は明らかではないが、五代目より工匠らしき事跡が見え、大工としては9代まで続いている。その代々の阪下甚吉の中でもとりわけ、その作品数、質ともに他を圧倒しているのが、八代甚吉である。

#### 1-136 名工・西田伊三郎(吉島家)



西田伊三郎は、高山町の中川原町に生まれ、社寺建築の道を歩んだ。伊三郎の父伊兵衛の師は、藤原宗安 21世を名乗る水間相模宗俊である。

吉島家は日下部家と仲良く並ぶ。日下部家は川尻治助が棟梁、吉島家は西田伊三郎が棟梁になっている。吉島家は明治8年の大火後翌年再建をした。しかし、明治38年、再度火災にあってしまったが、明治40年、西田伊三郎が棟梁となって再建を始めている。明治初年の規模どおりに、焼け残ったふすまや障子に合わせ、建物を寸分狂いなく再建した。

## 1-137 名工・川尻治助(日下部、田上家)



川尻治助の建てた建築で著名なのは大新町の日下部家、丹生川町の田上家、同町の大谷家、下二之町の柴田家である。

治助は高山市川原町に住んでいた。川原町は阪下一門などの大工職人が多く住んでいた町である。

治助は、天保6年(1835)に大工、川尻佐兵衛の二 男として生まれ、大正4年(1915)に没した。

## 1-138 高山の土蔵の創始・江戸屋萬蔵



左官の名工。山城屋万蔵と称する。江戸神田銀金町から高山に移り住んで、江戸式の土蔵の塗り方と型を高山へ伝える。半浮彫りの絵を塗り出した小森家の土蔵の扉が高山市に寄贈された。荏名文庫(江名子町)の土蔵、川上別邸の土蔵も万蔵の作。弘化3年8月、密通をして逃げた男女の追手に加わったものの、中尾峠で殺される。

## 1-139 屋台彫刻の名手・谷口与鹿



谷口与鹿は延恭の子(池之端)

従来、谷口与六は延恭の弟とされていたが、池之端は平成22年、母が実家から持参していた「加賀屋(上野)清五郎の古文書」に谷口与三郎の文書を確認した。その中に与六(与鹿)と谷口五兵衛延儔(とも)の名前が出ていて、文書による関係から祖父と孫であると検証した。つまり、与六と延恭は兄弟でなく親子であると結論を出している。\*池之端甚衛の見解

## 1-140 匠伝承・西明寺三重塔



建立年代は明らかでないが、様式手法からみて鎌倉時代後期のものと推定される。純和様の塔で水煙を失ったのは惜しいが各部ともよく整い全体の調和が優れて初重中央に大日如来をまつり、四天井には金剛界の32 菩薩、四方の壁には法華経28品の重文と解説画が、また扉の八天像など巨勢派の絵師が丹精を込めた仏画がよく残っており、長押、幣軸、天井等隅々まで極彩色文様で装飾されている。

## 1-141 匠伝承・西明寺本堂



西明寺は平安時代の承和元年(834)に三修上人が、 仁明天皇の勅願により開創された寺院である。

平安、鎌倉、室町の各時代を通じては祈願道場、修 行道場として栄えていて山内には 17 の諸堂、300 の僧 坊があったといわれている。

源頼朝が来寺して戦勝祈願をされたと伝えられている。戦国時代に織田信長は比叡山を焼き打ちしてその直後に当寺も焼き打ちをしたが、幸に国宝第1号指定の本堂、三重塔、二天門が火難を免れ現存しているのである。江戸時代天海大僧正、公海大僧正の尽力により、望月越中守友閑が復興され現在に至っている。

#### 1-142 古川祭



古川祭は毎年 4 月 19 日、20 日に岐阜県飛騨市古川町(旧 吉城郡古川町)で開催される気多若宮神社の例祭。「神輿行列」と祭りの開始を告げるために打ち鳴らしたといわれる「起し太鼓」と、絢爛豪華な 9 台の「屋台巡行」からなる。国の重要無形民俗文化財に指定ならびに、ユネスコの無形文化遺産に登録されている。

その起源は定かではないが、文献に最初に登場するのは屋台が 1776 年 (安永 5 年)、起し太鼓が 1831 年 (天保 2 年) である。

## 1-143 亀塚古墳



本古墳は、歩み山丘陵の北端が埋没する所に在って、 荒城地区と広瀬地区の出合いである。現在国府小学校 校庭となっている。近隣には、十王堂古墳が東北 400m に在り、北 150m に芦原古墳が在る。この地は国府町 の中枢である。

## 1-144 飛騨国分尼寺と条理



飛驒国分寺より西に 770m 進んだ位置にあり、JR 高山駅西方の市街地に所在する。現在は、辻ヶ森三社の境内地となっている。宮川の支流・苔川に面した沖積世の微高地上に立地する。

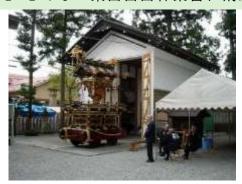
## 1-145 縄文時代の木工技術



寺東遺跡は高山市の郊外、岩井町地内にあって、昭和 62 年に発掘調査がなされた。岩井町公民館の前に小区画の水田があり、その地区の水田区画整理事業に先立って発掘調査がなされたが、調査前は地形を見る限り低湿地の印象があって遺存在を確信することができなかった。

しかし、表土を除去し、検出を進めると予想外に大量の土器片と石斧、大きめの住居址が検出された。縄 文時代中期の住居址 6 基が発見され、埋甕施設が各住居址に設けてあった。

#### 1-146 東山白山神楽台、飛騨総社



■東山白山神楽台、飛騨総社(例年・5月5日の祭礼) 〈県指定〉2基とも昭和34年3月10日に指定 〈所有者(所在地)〉

飛騨総社(屋台蔵・神田町2丁目100番地) 東山白山神社(屋台蔵・鉄砲町60番地2) 〈時代〉江戸時代(19世紀)

〈員数〉2基

屋台(2基)1神楽台(飛騨総社)2神楽台(東山白山神社)

#### 1-147 鎌倉大仏殿高徳院



高徳院(詳名:大異山高徳院清浄泉寺)は、法然上人(1133~1212年)を開祖とする浄土宗の仏教寺院です。法然上人は、善悪、男女、年齢、身分などの別なく、万人の救済を本願とされる西方極楽浄土の教主、阿弥陀如来に帰依されました。人は誰しも「南無阿弥陀仏(阿弥陀仏に帰依します)」と称えれば、その御加護に与ることができ、臨終に際しては極楽浄土に迎え入れていただける。これが法然上人の説かれた浄土宗の教えです。

#### 1-148 長谷寺



往古より「長谷観音」の名で親しまれる当山は、正式には「海光山慈照院長谷寺」と号します。

開創は奈良時代の天平八年(736)と伝え、聖武天皇の治世下に勅願所と定められた鎌倉有数の古刹です。本尊は十一面観世音菩薩像。木彫仏としては日本最大級(高さ 9.18m)の尊像で、坂東三十三所観音霊場の第四番に数えられる当山は、東国を代表する観音霊場の象徴としてその法灯を今の世に伝えています。

緑深い観音山の裾野から中腹に広がる境内は、四季を通じて花が絶えることのない「鎌倉の西方極楽浄土」と呼ばれ、花木の彩りがご来山者の心を和ませます。

#### 1-149 円覚寺



円覚寺の寺名の由来は、建立の際、大乗経典の「円 覚経」が出土したことからといわれます。また山号である「瑞鹿山(めでたい鹿のおやま)」は、仏殿開堂落 慶の折、開山・無学祖元禅師の法話を聞こうとして白 鹿が集まったという逸話からつけられたといわれま す。無学祖元禅師の法灯は高峰顕日禅師、夢窓疎石禅 師と受け継がれ、その法脈は室町時代に日本の禅の中 心的存在となり、五山文学や室町文化に大きな影響を 与えました。

## 1-150 建長寺



建長 7年(1255) 2月に造られた梵鐘(国宝)に「建長禅寺」とあるように、当寺はわが国で最初に"禅寺"と称した中国宋朝風の臨済禅だけを修行する専門道場である。およそ、中世を通じての寺院は、1か寺で天台宗と真言宗・浄土宗などを兼ねている例が多かったから、建長寺のような 1 寺 1 宗という浄刹はたいへん珍しかったといえる。

#### 1-151 鶴岡八幡宮



当宮は康平6年(1063)源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜辺にお祀りしたのが始まりです。

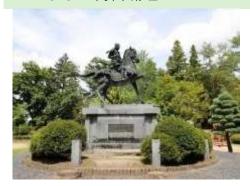
現在の御本殿は、文政 11 年 (1828)、江戸幕府 11 代将軍徳川家斉の造営による代表的な江戸建築で、若 宮とともに国の重要文化財に指定されています。

## 1-152 飛騨の家具



「飛騨の匠」の記述が現存する史料に初めて現れるのは、今からおよそ 1300 年前のことです。養老 2 年 (718) に制定された養老令 (賦役令) に斐陀国条が定められ、斐陀からは 1 里 (50 戸) につき 10 人が 1 年交代で都へ出役することが義務づけられましたが、その前の大宝律令 (701) でも同様であったと考えられています。飛騨国は優れた木工集団「飛騨の匠」を派遣する見返りとして、租・庸・調のうち、庸・調という税が免ぜられたのです。これが律令政治による、飛騨から都へ人材を派遣するという「飛騨の匠」制度の始まりです。

#### 1-153 高山城址



高山市街の東方にあって標高 686.6 メートル、通称城山、別名を臥牛山、巴山ともいう。金森入国以前は、「天神山城」と呼ばれた。飛騨の守護代である多賀出雲守徳言によって、文安年中(1444 年から 1449 年)に築城され、近江の多賀天神を祀ったことから多賀天神山、城は多賀山城と呼ばれたという。永正年間(1504年から 1521 年)には高山外記が在城していた。

#### 1-154 龍門寺



1308年、岐阜長良に輪番制の寺として、福光山龍門寺が創建されました。戦国時代に兵火により焼失しましたが、創建後150年ほど後に、当地に移転されました。現在は臨済宗妙心寺派の寺となっております。なお本堂は1830年に建築されたものです。

## 1-155 安楽寺



昔、当地の領主だった吉見兵庫介が北国に移ることになり、行基菩薩から授かった観音像も持っていこうとしたが、石のように動かなくなった。そのため、石櫃に入れて岩窟のなかに納めた。

## 1-156 秩父神社



秩父神社のご創建は、平安初期の典籍『先代旧事紀 -国造本紀-』によれば、第十代崇神天皇の御代に知 知夫国の初代国造に任命された八意思兼命の十世の子 孫である知知夫彦命が、祖神をお祀りしたことに始ま るとされており、武蔵国成立以前より栄えた知知夫国 の総鎮守として現在に至っています。

## 1-157 東福寺



弘法大師が開山したといわれ由緒ある真言宗の寺です。古い歴史を持つだけに流山市指定の文化財が数多くあります。千仏堂には約千体の仏像が安置され、左右には小さな阿弥陀如来像が安置されています。中尊は死んだ人を迎える来迎印を結んだ阿弥陀如来立像で、口を少しあけた「歯吹きの弥陀」で、江戸時代に作られたものです。千体もの阿弥陀像が安置されるのは、大変珍しいものです。また、近年中尊の台座から多数の結縁交名札(東福寺に結縁した多くの人々の名前が書かれた木札)が発見され、当時の信仰を知る貴重な資料です。

#### 1-158 大門神社



大門神社は住吉十二所社と称し旧大門村、下野田村の 鎮守の神として下野田に鎮座せしものと伝ふれどその 記録又は、旧蹟等も認められずに、古来より現今の神 域に鎮座せしものと推考される。

明治初年、神仏分離令により、明治六年四月大門村村主に列せられる。

明治四十年六月十四日大字大門地内、下野田地内、玄 蕃新田地内に鎮座せる神社(十社)を合祀し以って十 二所社の社号を宗教法人 大門神社と改称す。

## 1-159 国昌寺



国昌寺は、曹洞宗の寺で大崎山といい、染谷(大宮市)常泉寺の末寺で、徳川家光から寺領 10 石の朱印地が寄贈されている。開山は心巌宗智で、中興開山は能書家としても著名な大雲文龍である。

山門は、江戸時代中期(宝暦頃)の建築で、市指定文化財である。欄間の龍は、左甚五郎の作と伝えられるもので、棺を担いでこの門をくぐり抜けると、龍に中身を喰われて軽くなるという伝説をもっている。また、この龍はもと見沼に住んでいて作物を荒らしたので、日光から帰る途中の左甚五郎に龍を彫ってもらい、釘づけにして門におさめたという伝説もある。

#### 1-160 和歌浦天満宮



学問の神様である菅原道真が祀られ、大宰府天満宮、 北野天満宮とともに日本の三菅廟といわれています。 建築にあたったのは紀州根来出身の平内吉政・政信親 子。後に政信は江戸幕府の作事方大棟梁になった当代 屈指の工匠です。楼門は一間楼門として最大規模。本 殿は国重要文化財で、内外部ともに美しい極彩色が施 されています。

## 1-161 紀州東照宮



紀州東照宮は、和歌山県和歌山市和歌浦に鎮座する神社。江戸幕府初代将軍徳川家康を神格化した東照大権現と紀州藩初代藩主徳川頼宣を神格化した南龍大神を祀る。

元和7年(1621)、頼宣が南海道の総鎮護として創建された社殿は、「関西の日光」とも呼ばれ、権現(ごんげん)造りとなっています。

また、江戸初期の代表的な重要文化財建造物としても有名です。

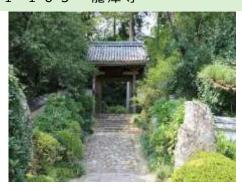
#### 1-162 定光寺



定光寺は、愛知県瀬戸市定光寺町にある臨済宗妙心寺派の寺院。山号は応夢山。本尊は延命地蔵願王菩薩(地蔵菩薩)。桜や紅葉の名所としても知られている。寺域に隣接して尾張徳川家初代徳川義直の廟所である源敬公廟があるが、尾張徳川家の菩提寺ではない。

廟所参道第一門である「獅子門」の左右には左甚五郎作といわれる獅子の彫刻が一面に施されている。獅子の彫刻は、聖域の守護という意味を持つことから、廟を守る第一門に刻まれたといわれている。

#### 1-163 龍潭寺



風光明媚な奥浜名湖その北に位置し、豊かな自然、 緑と花に抱かれた町、浜松市井伊谷、そこに萬松山龍 潭寺がある。

この井伊谷地域は、古くは「井の国の大王」が聖水祭祀をつとめた「井の国」の中心で、浜名湖の注ぐ井伊谷川、神宮寺川の沿っての台地には縄文・弥生の遺跡、古墳が数多く残され、水にまつわる伝説も多い。特に当地の歴史と、当寺の縁起にゆかり深いのが、「共保出生の井戸」である。

## 1-164 粉河寺



宝亀元年(770年)のある日、猟師の大伴孔子古(くじこ)が山中で霊光を発する場所を見た。霊光を見た孔子古はこの地が霊地に違いないと考え、ここに小堂を建立したと伝えられている。

この小堂に童男大士が訪れ、七日間、堂に籠もって 仏像を刻み、これを本尊にするようにと孔子古に与え たといわれており、翌日、童男大士が去ると、その仏 像は金色に輝く観世音菩薩になったという。孔子古は 童男大士こそ観世音の化身と考え、以後、殺生をやめ 供養礼拝したといわれ、これが粉河寺の創始と伝えら れている。

## 1-165 米倉寺



米倉寺の本堂に、左甚五郎の作といわれる雌雄の龍がある。あるとき、この二頭が喉を潤すため、葛川に出て水を飲み、のそのそ寺に帰ろうとするとき、洗濯婆さんに出会った。

婆さんは驚きのあまり腰を抜かし、しばらくは口もきけぬ有様であったそうな。このことがあって、再び龍が外出しないように、二頭とも両眼を鋸でひき潰したので、その歯跡が残っているという。

## 1-166 桃原寺



浄土真宗本願寺派慶谷山桃原寺は口承によれば、1000~1200年ほど前に遡ると言われ、創建の地とされる医王山(富山県と石川県の県境)には「桃原寺」という地名が残っています。その後、その後早月川上流の虎谷、角川下流の慶野から現在地へ移ってきました。永正7年(1510)虎谷の地に仏閣があったころに真言宗から浄土真宗へ改宗しました。

#### 1-167 長国寺



#### 真田家の菩提寺

真田山の山号を持つ、真田家の菩提寺。真田家歴代藩主の墓があるほか、信之、信弘の御霊屋があります。 信之の御霊屋は重要文化財に指定されており、破風の 鶴は左甚五郎、格天井の絵は狩野探幽筆と伝えられて います。

## 1-168 誕生寺



誕生寺は、日家上人により建治 2年(1276)に創建したと伝えられる日蓮宗の寺院で、明応 7 年 8 月 (1498)と元禄 16 年 (1680)に地震と津波により七堂伽藍を失う被害を受けた。その後再建された現存の仁王門は、宝永 3年 (1706)に建立されたものである。仁王門は5間3戸の楼閣門で、下層に和様三手先、上層に唐様三手先の組物を持ち、本蟇股の中備としている。いくつかの装飾の中でも、楼上に見える般若の彫刻は左甚五郎の作と伝えられている。

#### 1-169 神野寺



神野寺は、房総三山の一つで、信仰と伝説の山として知られる鹿野山上に建つ真言宗智山派の古刹です。 広い境内は雄大な規模を誇っています。寺伝では聖徳太子によって創建されたといわれています。杉木立に囲まれた境内には仁王門、本堂、経堂、六角堂、鐘楼堂、五重の石塔などがあります。運慶、左甚五郎の作といわれる彫刻や国の重要文化財である表門などがあり、由緒ある寺として知られています。

#### 



太平洋戦争中に供出された梵鐘は<吉原鐘>と呼ばれ、1799年に住職と江戸吉原の人々と縁あって、浅草や吉原の人々から贈られた鐘であった。

その由来を書いた掛軸は今も残されている。

歌人・北原白秋が戦前に浄願寺に立ち寄った際に詠ん だ句碑がある。

<梅雨はれて吉原鐘に人のほる>

浄願寺は親鸞聖人の弟子によって開創されたと伝えられ、1469年現在地に移転したといわれている。

#### 1-171 書写山圓教寺



西国三十三所のうち最大規模の寺院で、「西の比叡山」と呼ばれるほど寺格は高く、中世には、比叡山、大山とともに天台宗の三大道場と称された巨刹である。 京都から遠い土地にありながら、皇族や貴族の信仰も 篤く、訪れる天皇・法皇も多かった。

境内は、仁王門から十妙院にかけての「東谷」、摩尼殿(観音堂)を中心とした「中谷」、3つの堂(三之堂)や奥の院のある「西谷」に区分される。伽藍がある標高 371m の書写山は、兵庫県指定の書写山鳥獣保護区(特別保護地区)に指定されている。

## 1-172 熊野速玉大社



熊野速玉大社は、和歌山県新宮市新宮1にある神社。 熊野三山の一つ。

熊野速玉大神と熊野夫須美大神を主祭神とする。

境内地は国の史跡「熊野三山」の一部。2002年(平成14年)12月19日、熊野三山が史跡「熊野参詣道」から分離・名称変更された際に、御船島を含む熊野速玉大社境内が追加指定された。

2004年(平成 16 年) 7月に登録されたユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の構成資産・大峯奥駈道の一部。

## 1-173 西橋寺



天文年間、上舟岡に阿弥陀堂と称する草庵があった。 関東 18 檀林の一つ武州鴻巣の勝願寺(埼玉県)の則伴 頭を務め諸国を回っていた寂湛が、天正 10 年 (1582) 当所に一宇を造立した。現在の建物は享保 5 年 (1720) 造営のもの。切口 8 畳敷の欅 1 本で造られたといわれ る。本堂向拝の上に左甚五郎作といわれる兎の彫刻が ある。

# 1-174 出雲大社



出雲大社は、島根県出雲市大社町杵築東にある神社。 祭神は大国主大神。式内社(名神大)、出雲国一宮で旧 社格は官幣大社。神社本庁の別表神社。宗教法人出雲 大社教の宗祠。二拝四拍手一拝の作法で拝礼する。明 治維新に伴う近代社格制度下において唯一「大社」を 名乗る神社であった。

八足門は蛙股の瑞獣や流水文などの彫刻が施され、 左甚五郎の作と云われる。

#### 1-175 方広寺



方広寺は、京都府京都市東山区にある天台宗の寺院。 通称は「大仏」または「大仏殿」。豊臣秀吉が発願した 大仏(盧舎那仏)を安置するための寺として木食応其 によって創建された。

## 1-176 知恩院



知恩院は、浄土宗の宗祖・法然房源空(法然)が東山 吉水、現在の知恩院勢至堂付近に営んだ草庵をその起 源とする。

応仁元年(1467年)に始まった応仁の乱の際には、知恩院 22 世珠琳が現在の滋賀県大津市にある金蓮寺に避難、その後現在の大津市内に新知恩院を建立した[1]。そして、文明 10年(1478年)に知恩院を再興するが、永正 14年(1517年)にも消失する。大永 3年(1523年)、知恩院 25世存牛と百万遍知恩寺 25世慶秀との間で本寺争いとなったが知恩院が勝利し、鎮西義で第一の座次となり本山となった。

## 1-177 石清水八幡宮



#### 八幡造り御本殿

国家鎮護の社として都の裏鬼門に位置する男山山上に御鎮座されてより 1150 年以上の間、時の為政者を始め、幾多の人々の祈りが捧げられ、篤い崇敬を受けてきた当宮の根本である本殿は貞観元(859)年、木工寮権允・橘良基は清和天皇の勅命により六宇の宝殿を建立し、順次「八幡造り」の社殿を完成させるに至りました。

以来、造営 14 度・修理 17 度におよび、現在の社殿 は寛永 11(1634)年、徳川三代将軍家光公の修造による ものです。

#### 1-178 誠照寺



親鸞聖人ゆかりの寺で、真宗誠照寺派本山で越前四箇本山の一つ。御影堂は木造建物では県内最大規模を誇ります。山門は四足門で「鳥棲まずの門」とも言われ、左甚五郎作と伝えられる彫刻「駆け出しの龍」は特に有名です。

## 1-179 成相寺



成相寺は日本三景天橋立を眼下に望む景勝地にあり、元々は日本古来の山岳宗教の修験場で、日本全国にある五つの「聖の住む所」の一つとして信仰を集めてまいりました。慶雲元年(704)に文武天皇の勅願寺として真応上人が創建したと伝えられ、本尊は身代わり観音、美人観音として名高い聖観世音菩薩です。

境内には悲話を伝える「撞かずの鐘」、奇怪な話の「底なし池」、左甚五郎作の「真向の龍」などがあり、しゃくなげの名所でもあります。

## 1-180 園城寺(三井寺)



天台寺門宗の総本山。境内に天智・天武・持統の三 天皇の御産湯に用いられたとされる霊泉(井戸)があることから、「御井の寺」と称され、後に「三井寺」と 通称されるようになった。国宝の金堂を始め、西国第 十四番札所の観音堂、釈迦堂、唐院など多くの堂舎が 建ち並び、国宝・重要文化財は100余点を数える。「閼 伽井屋」の正面上部に左甚五郎の作と伝えられている 「龍の彫刻」がある。

## 1-181 圓明寺



圓明寺には、アメリカ人巡礼者が発見した四国霊場 最古の銅板納札が保存されている。

大正 13 年 3 月、シカゴ大学のスタール博士が四国 逼路をしている途次、寺の本尊・阿弥陀如来像を安置 している厨子に打ち付けてあったのを見つけた。

そして本尊阿弥陀三尊仏像の両脇に侍立する観音・ 勢至の両菩薩像は鎌倉時代の作で、県指定有形文化財 です。

## 1-182 北口本宮冨士浅間神社



景行天皇 40 (西暦 110 年)、日本武尊ご東征の折、 足柄の坂本 (相模国)より酒折宮 (甲斐国)へ向かう途 中で当地「大塚丘」にお立ち寄りになられ、そこから 富士の神霊を親しく仰ぎ拝され「北方に美しく広がる 裾野をもつ富士は、この地より拝すべし」と仰せにな りました。よって大鳥居が建てられ、大塚丘に浅間大 神と日本武尊をお祀りし、当社の創建となりました。

#### 1-183 酒列磯前神社



『文徳実録』によると、文徳天皇の斉衡 3 年 (856年) 12 月 29 日に常陸国鹿島郡大洗磯前に御祭神大己貴命・少彦名命が御降臨になり、塩焼き(塩を精製する者)の一人に神がかりして、「我は大奈母知、少比古奈命なり。昔此の国を造り訖へて、去りて東海に往きけり。今民を済わんが為、亦帰り来たれり」と託宣され、当社「酒列磯前神社」が創建され、また現在の東茨城郡大洗町には「大洗磯前神社」が祀られました。

# 1-184 鳥追観音(如法寺)



如法寺は、福島県耶麻郡西会津町野沢字如法寺にある真言宗室生寺派の寺院。山号は金剛山。本尊は聖観世音菩薩。この寺には境内に観音堂があり、「鳥追観音」の名で知られる。会津ころり三観音のひとつ。鳥追観音如法寺は、仏都会津の祖・徳一大師が、千二百年前の平安初期大同2年(807)に、会津の西方浄土として御開創なされた屈指の観音霊場であります。

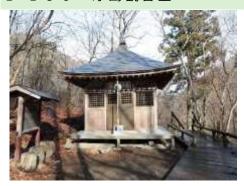
## 1-185 紫香楽宮跡(甲賀寺跡)



信楽高原鐵道の紫香楽宮跡駅から北西へ約 lkm、松林に覆われた丘陵地に残る、国指定の史跡です。

紫香楽宮跡は、奈良時代の天平 14 年 (742)、現在の京都府木津川市に恭仁宮を造営中であった聖武天皇が、恭仁宮から東北への道を開いてこの地に造営した離宮であり、たびたびの行幸の後、3 年後に改めて首都と定められました。

#### 1-186 浮島観音堂



浮島観音堂は平安初期の延歴 14 年(西暦 795 年)に観音不動昆沙門大師が創設し、その後、文明 8 年(1469 年)に小海住真海師が本尊を再興。さらに天文 3 年(1534 年)に御堂再造(改築)されましたが、老朽が甚だしく昭和 59 年 5 月にほぼ原型のまま新築されて現在に至ります。堂内には、日光東照宮にある有名な『眠り猫』をはじめ、各地で数々の彫刻を完成させた名匠・左甚五郎作と伝わる「浮島如意輪観音」が安置されています。

#### 1-187 願成院本堂(愛染堂)



願成院本堂は、竹田市街地の西側の八幡山の中腹に建ち、愛染堂として親しまれている。この建物は、一重、宝形造、本瓦葺の三間堂で周囲に高欄をめぐらせており、組物を禅宗様三手先、軒を扇垂木にするなど本格的な手法を取っている。

愛染堂は、JR豊後竹田駅から徒歩 5分位です。観音寺の石段を上りつめたところです。

## 1-188 瑞巌寺



天長5年(828)、慈覚大師円仁によって開創された 奥州随一の古刹で、延福寺と呼ばれていました。延福 の寺号は天台宗の総本山、延暦寺に由来します。正元 元年頃(1259)臨済宗に変わり寺名も円福寺へと改名 されました。

現在の建物は、慶長 14 年 (1609)、伊達政宗公が桃山様式の粋をつくし、5 年の歳月をかけて完成させたものです。

#### 1-189 姫路城



姫路城は播磨国飾磨郡のち飾東郡姫路、現在の姫路市街の北側にある姫山および鷺山を中心に築かれた平山城で、日本における近世城郭の代表的な遺構である。江戸時代以前に建設された天守が残る現存 12 天守の一つで、中堀以内のほとんどの城域が特別史跡に、現存建築物の内、大天守・小天守・渡櫓等8棟が国宝に、74棟の各種建造物が重要文化財に、それぞれ指定されている。1993年(平成5年)12月にはユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された。この他、「国宝五城」や「三名城」、「三大平山城・三大連立式平山城」の一つにも数えられている。

#### 1-190 手力雄神社



社伝には5世紀末期ごろ中里(今の岐阜県各務原市 那加地区)を支配していた豪族により、山の中腹に磐 座祭祀として神様を祭ったのが始まりとされます。

美濃國神明帳に、真幣明神(みてぐらみょうじん) のご神名が見られお祀りされていたご祭神がそれと見 られる。

主祭神手力雄神は、古くは佐良木郷八ヶ村の山中に 祀られていたのを、後に現社地に奉還され佐良木郷の 産土神として崇敬されたと伝わります。

## 1-191 根来寺



平安時代後期の高野山の僧で空海以来の学僧といわれた覚鑁が大治5年(1130年)に高野山内に一堂を建て、伝法院と称したことに始まる。鳥羽上皇は覚鑁に帰依し、荘園を寄進するなど手厚く保護した。2年後の長承元年(1132年)、覚鑁は鳥羽上皇の院宣を得て、高野山に大伝法院と密厳院を建立した。さらに2年後の長承3年(1134年)、覚鑁は金剛峯寺座主に就任し、高野山全体を統轄する強大な勢力をもつに至る。

# 1-192 北野天満宮



天暦元年(947)に創建された、全国に約1万2000 社ある天神社・天満宮の総本社。平安時代に学者・政治家として活躍した菅原道真公を御祭神とし、現在は学問の神様としての信仰が厚いため、多くの受験生らが参拝に訪れる。国宝である御本殿は豊臣秀頼公が造営したもので、八棟造と称される絢爛豪華な桃山建築。毎月25日の縁日では宝物殿の特別公開が行われ、境内には多くの露店が立ち並んでにぎわいを見せる。また、梅と紅葉の名所としても名高い。

## 1-193 豊国神社



慶長3年8月18日(1598年9月18日)に亡くなった豊臣秀吉の遺体は火葬されることなく伏見城内に安置されていたが、死去の翌年の慶長4年(1599年)4月13日、遺命により東山大仏(方広寺)の東方の阿弥陀ヶ峰山頂に埋葬され(『義演准后日記』・『戸田左門覚書』))、その麓に高野山の木食応其によって廟所が建立されたのに始まる。

## 1-194 平湯神社



平湯神社は、この平湯温泉の中心地に鎮座する神社で、創建時期は定かではありませんが、もともとは天照大御神を御祭神として祀る神社で「神明神社」と呼ばれ、里人の崇敬を集めていました。しかし 1980 (昭和 55) 年には平湯温泉開闢の「白猿伝説」にあやかり、温泉発見に大きな役割を果たした白猿を合祀して「平湯神社」と改称されました。最も大きなお祭りは毎年10月1日に行われる例祭ですが、その他にもいくつかお祭りが行われています。